

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第二6:3~10 「この務めがそしられないために」

[3-5]「私たちは、この務めがそしられないために、どんなことにも人につまずきを与えないようにと、あらゆることにおいて、自分を神のしもべとして推薦しているのです。すなわち非常な忍耐と、悩みと、苦しみと、嘆きの中で、また、むち打たれるときにも、入獄にも、暴動にも、労役にも、徹夜にも、断食にも、」
人につまずきを与えず、あらゆることにおいて神のしもべとして生きていくためには忍耐が必要。それも「非常な忍耐(ヒポモネ)」である。これは原語では、じっと我慢して耐え忍ぶというだけではなく、信仰によって苦難を勝利に変える力と言えるものである。続いて5節までに九つの苦難が出てくる。これは三つずつ三組に分けられる。第一の組は①悩み、②苦しみ、③嘆き。これは一般的な困難さを表している。第二の組は①むち打ち、②入獄、③暴動。これは特別な迫害を表している。第三の組は①労役、②徹夜、③断食。これは自ら選んだ苦しみといえるもの。福音伝道にたずさわる者として、やって来る苦難に耐えることは、それだけ人々の救いと励ましにつながることになる。それゆえ、パウロはあえてこのような苦しみを避けずに、非常な忍耐をもってこの務めに励んでいった。彼は自分のこの尊い務めがそしりを受け、人につまずきを与えないようにと、あらゆることにおいて自分を神のしもべとして推薦しているのである。

[6-10]「また、純潔と知識と、寛容と親切と、聖霊と偽りのない愛と、真理のことばと神の力とにより、また、ほめられたり、そしられたり、悪評を受けたり、好評を博したりすることによって、自分を神のしもべとして推薦しているのです。私たちは人をだます者のように見えても、真実であり、人に知られないようでも、よく知られ、死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています」

ここでパウロは患難にともなう様々な恵みを列挙している。

①純潔…道徳的純潔とともに純真で私心のない動機をも意味する。②知識…この世の知識ではなく、救いについて神が啓示してくださった知識。具体的に言えば神のことばである聖書であり、その指し示すイエス・キリスト。③寛容…寛大で人をよく赦し受け入れること。④親切…思いやりや、配慮の行き届いていること。⑤聖霊…この場合は聖霊ご自身というよりも聖霊によって与えられる賜物としての超自然な力のことと考えられる。これこそ偽使徒から真の使徒パウロを区別するもの。⑥偽りのない愛…自己中心的でない愛、誠実で純粋な愛のこと。⑦真理のことば…救いを示すことば、福音のこと。⑧神の力…みことばを宣べ伝える時に伴う神の力→Iコリ2:3~4。⑨左右の手に持っている義の武器…御霊の剣である神のことばと信仰の大盾→エペ6:16~17

またパウロは8節にあるように、ほめられたり、そしられたり、悪評を受けたり、好評を博したりする世間の評価の中においても自分を神のしもべとして推薦している。さらに彼は七つの対照的な表現によって自分を神のしもべとして示す。

1. 人をだます者のように見えても真実であり。…彼が偽使徒であるとの批判に答えている。 2. 人に知られないようでもよく知られ。…彼は力強く広範囲な福音伝道で多くの人に知られていた。 3. 死にそうでも、見よ。生きており。…彼は伝道に伴う迫害により何度も死にそうになったが、神の守りにより、見よ。生きています。 4. 罰せられているようであっても、殺されず。…彼があんなに苦しみを受けるのは神に罰せられ、懲らしめられているのだという者がいたようであるが、それは人々の救いのためであった。 5. 悲しんでいるようでもいつも喜んでおり。…福音伝道に伴う悲しみがどんなに大きくても、主から与えられる慰めのために、喜びにあふれることができる。 6. 貧しいようでも、多くの人を富ませ。…彼は経済的には貧しかったが、キリストの測りがたい霊的富を持って人々を富ませていた。 7. 何も持たないようでも、すべてのものを持っています。…神のためにすべてをささげきった彼には有形無形の神の豊かな恵みが注がれていた。→ピ°リ° 3:7~9、4:19、ロー8:32 キリストを持つということは、すべてを持つということなのである。

このように福音宣教の務めにたずさわる者は誰であっても、人につまずきを与えることのないように、あらゆることにおいて自分を神のしもべとして推薦していくこと、そのように努力し、励んでいくことが大切である。